

# 【鈍川】 神子之森・古屋之谷

## ⑥0 玉川

「玉川」という川は、神子之森、奈良ノ木から発した川で、鈍川温泉との分かれ道のところで木地・鈍川溪谷から流れてくる木地川と合流する。その後、蒼社川と落合で合流、蒼社川本流となる。

「玉川」は、玉川町の川の中でもっともゆるやかでのどかな川。他の川は溪谷を形成し、蒼社川は玉川ダムに流れ込むほどの水量がある。しかし、この「玉川」は静かにゆるやかに流れている。最もこころ休まる里山の川だ。

鴨部村・鈍川村・龍岡村・九和村が合併し、玉川村という名前になったのは、この辺りに伊勢神宮の所領（玉川の御厨／たまがわのみくりや）があったことに由来していると言ふ。御厨とは、日本全国の良質の穀物産地を選んで伊勢神宮の料地とされたもの。



## ⑥1 孝行者のこまさん



神子之森に、親孝行な「こまさん」のお話が伝わっている。

貧しい家に生まれたこまさんは、短気で頑固な父親の行状にもめげず一生懸命働き、家族を助けてなんとか生活をしていった。そんなある日、その孝行ぶりを知った殿様から褒め状をいただいた。それ以来、父親もこまさんに感謝するようになり、家も栄えたというお話。こまさんは実在した人物で、その石碑が残されている。

## ⑥2 あなぐらさん



あなぐらさんは、村人の願いごとを聞いていろいろなものを貸してくれる。お膳、座布団などあらゆるものを貸して下さった。ある日すっかりおの嫁が法事のため20個借りたお茶碗を1個割ってしまった。それ以来、何も貸してくれなくなり、忘れ去られていた。その後おばあさんが息子が痛めた足の治癒をお願いした際に、あなぐらさんに頼まれ、家に持ち帰りお祀りすることになった。息子の足は治り、今もその家にあなぐらさんが祀られている。